

雪崩れ研修会参加のお礼

山口県山岳連盟
遭難対策委員長
坂口仁治

この度は雪崩研修会に参加いただきありがとうございました。

2013年ゴールデンウィークの白馬岳大雪渓での雪崩遭難は、山口県山岳連盟にとって、初めての大惨事でした。二度とこのような事故に遭ってほしくないとの思いから、遭難事故の総括として、本研修会を企画させていただきました。

参加の募集に当たっては、山岳連盟会員は元より、幅広く県内一円の登山者、そして、他県の山岳関係者にも声を掛けさせていただき、約80名の方に参加いただきました。参加いただきました皆様には、心よりお礼を申し上げます。

今回の研修会講師には、白馬岳雪崩遭難捜索において、直接現場捜索に関わって戴いた二名の方に講師として来県いただきました。廣川氏はアイスクライミングを中心とした、国内でも有数のアルパインクライマーです。また、元村氏は雪崩救助犬による遭難捜索の第一人者です。

そのような立場のお二人でありながら、研修のために、お忙しいスケジュールを調整し、遠路はるばる山口まで来ていただきました。お二人の講義内容の中には、一歩間違えば自らの命の存亡にも関わるような、厳しい現場体験を通しての話もありました。話の内容一つ一つが経験を積んだ者にしか伝えることのできない、説得力と迫力のあるもので、参加者一同、身の引き締まる思いでの聴講でした。

また、午前中のパネルディスカッションでは、パネリスト以外の皆さんにも多数参加いただき、自らの経験や各山岳会、県での状況もお話しいただきました。いずれも大変参考になる情報ばかりで、参加された皆さまの記憶にしっかりと焼きつけられたのではないのでしょうか。

欲を言えば、折角の素晴らしいメンバーの集まりだったのに、時間の都合で、本格的な討論の場面まで行けなかったことは残念でした。それらについては、またの機会が作れば、次はテーマを絞って討論することを考えてみたいと思います。

山岳関係者は、山の愛好者を幅広く増やしたいと思っています。しかし、登山者が増えれば増えるほど、事故のリスクは増えてきます。山口県山岳連盟では、加盟団体の皆さんに事故に遭って欲しくない、また、不測の事態に遭った時も、冷静に対処してほしいとの思いで、毎年種々の研修会(一般・クライミングレスキュー、冬山登山・沢登り研修等)を企画し、実施して参りました。

今回の研修は、不測の事態に会わないための研修でしたが、遭ってしまった時の対処方法と相まって学ぶことが肝要だと考えています。「実技研修では同じようなことを繰り返し面白くない」との声を聴くことがあります。当然内容の充実を図って行く必要がありますが、「知っていることと、できることは大きく違います。」できるだけ短いタームで研修会に参加し、技術を自分のものとし、自分の身は自分で守ることを心がけていただければと思います。

参加の皆さんのこれからの登山活動へ、小さな一石を投じることができたのであれば幸いです。